発行責任者
隠岐広域連合立
隠岐病院長
隠岐の島城北町

隠岐病院の救急医療
～年末年始の診療報告を例に紹介します～

隠岐病院長　笠木重人

お正月気分がとっくに抜け切った今ごろになって、年末年始の診療報告をすることにかなりの気恥ずかしさを覚えますが、隠岐病院の救急医療の実例・実績として、報告させていただきます。

十二月二十九日から一月三日までの六日間の休み期間中に、表のように合計二三六人の患者さんが救急外来を受診されました。その内の十八名の方が、そのまま緊急入院となりました。また、この期間に緊急手術が整形外科で四件、産婦人科で一件ありました。一月一日元旦には、日中と夜間を併せて五十人もの受診がありました。

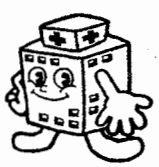
ご承知のように、この隠岐島後の島では、病院は隠岐病院一箇所しかありません。島の皆さんにすれば、島でただ一つの病院なんだから当り前だと思われるでしょうが、一年三六五日、二十四時間、たらい回しをすることもなくすべての患者さんを受け入れ、必要な検査やX線検査を休日・夜間でもおこない、重症であれば入院治療をおこない、高度医療が必要な方にはヘリコプター等で確実に転院のお世話をする、などなど、これらのことを間違いなく実施して行くことは、隠岐病院のような小さな病院にとっては、正直申し上げて大変なことです。

隠岐病院では、医師・看護師・助産師・検査技師・放射線技師を初め、受付の事務職員、裏方的な職員、全てが力を合わせて島の救急医療を守っています。また、救急医療ではありませんが、透析室の診療や病院給食など、お正月だからといって休むことが出来ない仕事もたくさんあり、これらも通常どおりにおこなっています。隠岐病院は一〇〇床余りの小さな病院で職員数も限られますが、職員みんなが使命感に燃えて、いやなそぶりを見せずに、「この島に住む、安心の医療」という病院の理念を実践しています。院長として本当にうれしく、心強く、頭の下がる思いでいます。

この度の年末年始以降、救急外来は看護師二名が勤務に付くことになりました。これまでは一名だけの勤務で、責任の重さと忙しさに大変な思いをしていたのですが、体制が強化できました。看護師さんたちが工夫や努力をしてくれたおかげだと思っています。

まだまだ書き足りないことがたくさんありますが、島の皆さまがより安心していただくために、職員の総力を挙げて、救急医療体制、休日夜間の診療体制を守り充実していくために頑張っています。どうかよろしくご承知いただいた上で、隠岐病院を更に良くして行くため皆さまの応援をお願い致します。

年末年始の救急外来受診者数
（下段：内、緊急入院患者数）



（人）

	12月29日		12月30日		12月31日		1月1日		1月2日		1月3日		合計
	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	
	29	12	27	11	31	12	37	13	29	7	24	7	236
（内、緊急入院）	3	3	1	0	4	0	3	1	0	0	3	0	18

06クリスマス会
ースナップ集ー

▲今年のサンタは病院一の
いい男？泌尿器科の竹田先生

去る１２月２２日、看護師主催のクリスマス会が行われました。今年は院外より、吉田国広さまが、「しげさ節・そば打ち編」の素晴らしい名人芸を披露してくださいました。

▲ 感動！素晴らしいパフォーマンスの吉田さま

◂いつもより、ちょっとおしゃれに！
トランペット演奏の内科の石飛先生

▲２階病棟・皿おどり

▲３階病棟・銭太鼓

◂青年部ベル演奏
イブも夜勤です。

飛び入りで大活躍！
田中くん

インフルエンザの季節到来！かかったらすばやく受診を

インフルエンザは、１９１８年のスペインかぜ、５７年のアジアかぜ、６８年の香港かぜ、７７年のソ連かぜの流行が知られており、スペインかぜでは２０００万から５０００万人が死亡したと推定されています。「かぜ」という言葉に「おや」、と思われた方もいらっしゃるかもしれません。まずこの違いについて説明しましょう。

かぜとインフルエンザの違いは？

「かぜ」という病名は日常的にも使われますが、医学的にはさまざまなウイルスによって起こる急性の呼吸器炎症性疾患を総称したものをいいます。原因となるウイルスは、ライノウイルスやアデノウイルス、ＲＳウイルスなど多種多様ですが、出てくる症状はくしゃみ、鼻水、鼻づまり、咳（せき）、痰（たん）、からだのだるさ、発熱、関節痛などで、１週間前後で治るのでひとまとめにして「かぜ」と呼んでいます。インフルエンザもその意味ではこうした「かぜ」のなかに入るのですが、たちのわるさが極端なので特に独立してとりあげられます。

インフルエンザは大規模な流行を起こし、高齢者では肺炎を起こし死亡する場合があること、子どもでは脳炎や脳症などの後遺症を残すことがあるからです。一般のかぜが、こそ泥のようなものであれば、インフルエンザはテロリストのようなものです。そのため「インフルエンザはかぜじゃない」として一般への広報や啓発が行われるわけです。

インフルエンザワクチンは効くの？

インフルエンザには大きく分けてＡ型とＢ型の２種類があります。さらにＨとＮという型別から細かく分けられます。

予防接種の場合、毎年流行する型を予測して、「これ」はという型のワクチンを接種しています。したがってその型と全く違う型が流行すればワクチンは効かないことになります。インフルエンザウイルスは、頻繁に型のマイナーチェンジを繰り返し、ときに大規模な変化（新型ウイルス）を起こしながら攻めてくるので、予測も困難になるわけです。これに対してはＷＨＯ（世界保健機関）を中心とした流行の監視体制が敷かれています。このことからもインフルエンザはテロリストなみのウイルスだといえるでしょう。

診断と治療法は？

インフルエンザの場合は犯人がはっきりしているので、診断にもそれ専用の診断キットがあります。鼻やのどのぬぐい液で１０～１５分くらいでインフルエンザかどうかを９割近くの確率で診断することができます。また単に症状をやわらげる一般的なかぜ薬とは違い、このウイルスに向けた治療薬があります。

インフルエンザの潜伏期は非常に短く、感染から約２４時間で発熱などの症状で発病します。抗インフルエンザ薬は発病して４８時間以内に服用するのがポイントです。

予防は？

①流行期には人ごみを避ける。
人ごみを避けるといっても、冬場外出せずにずっと家の中にいることはできませんよね。外出時にはマスクをつけましょう。マスクで数割のウイルスの侵入を減らせますし、また喉や鼻を乾燥から守ってくれるので、ウイルスを排除する粘膜の働きを助けてくれるので無駄ではありません。

②外出後は、うがい、手洗いをする。

③室内の湿度を保つ。
冬場に流行するウイルスは、もともと高温、高湿度では長く生存できません。加湿器などを使って部屋の湿度を保ちましょう。お湯を沸かしたり、洗濯物を干しておくのも良いでしょう。

④体力を保つ。
体力が低下していると、インフルエンザに感染しやすくなります。バランスのとれた食事、十分な睡眠で自身の免疫力を高めておくことが大切です。

「かぜは万病のもと」といわれます。かからないにこしたことはありません。もしかかったらすばやく診断をうけて治療をすることが自分のからだはもちろん、周りに広めないためにも何より大切です。

鳥インフルエンザQ&A

Q．インフルエンザの予防接種をうけていると、鳥インフルエンザにかからない？

A、通常のインフルエンザワクチンは、人の間で流行しているAソ連型、A香港型そしてB型のウイルスに対して予防効果があるものです。鳥インフルエンザなど新しいタイプのインフルエンザウイルスには効果はありません。

Q．卵や鶏肉を食べても大丈夫？

A，インフルエンザウイルスは、熱に弱いウイルスです。70℃以上に加熱することで、ウイルスは死滅します。十分に加熱調理された鶏卵、鶏肉から、鳥インフルエンザに感染することはありません。

Q．鳥インフルエンザの流行している地域への旅行は避けたほうがよい？

A，鳥インフルエンザの人への感染は、鳥と密接に接触をしたときに起こると考えられています。流行している地域に行っても生きた鶏などに近づかないようにすれば問題はないでしょう。

鳥インフルエンザといっても感染予防の方法は、通常のインフルエンザと同様です。さらに大流行が起こっても、情報に惑わされないように正確な情報を入手することが大切です。

あとがき

インフルエンザの特集を組みましたが、暖かいせいなのか、まだ当院ではインフルエンザ流行のきざしはありません。しかし、昨年秋頃より、おたふくかぜ、水ぼうそう、マイコプラズマ肺炎、嘔吐下痢症などで受診される方が少なくありません。健康一番！おかしいなと思ったら受診を。まめなかの、今年もよろしくお願いします。